(5) 授業モデル5（中学校1年）

生徒の適切なコース選択と達成感・充実感を味わえるような教材・手だてを工夫し、数学を得意と感じさせ授業の満足度を高める習熟度別少人数学習「発展コース」の授業づくりの提案　＜課題2、課題5の解決例 ＞

ア　解決を図る課題

○　中学校では、「自分の希望したコースで学習している」と考えている生徒が90％である。しかし、「コース別学習に満足している」という生徒は77％と低い。適切なコース選択の工夫、及び、達成感や充実感を味わえる授業づくりが課題である。

○　小学校の算数を得意だと感じる６年生の割合に比べて、中学校の数学を得意だと感じる１年生の割合が低い。コース別にみると、「発展コース」である速く進むコースにおける減少が顕著であり、約30％の減少がみられる。発展コースにおいて、生徒に数学を得意と感じさせたり満足度を高めたりすることが課題である。

イ　授業モデルの提案

習熟度別少人数学習「発展コース」で学ぶ生徒の得意意識や満足度を高めるために、授業に対して達成感や充実感を味わえるかという観点から授業改善をする必要がある。また、生徒が適切にコース選択を行えるようにするとともに、実生活につながるような問題設定の工夫を行い、生徒主体の学習が展開できるようにすることが大切である。生徒が授業に主体的に取り組み、問題に対して見通しをもって追究し、解決することで達成感を味わうことができる。また、自分の考えを発表して認められたり発展的な問題を解決できたりすることで充実感を味わうことができるようになると考える。このような達成感・充実感を味わうことで、数学を得意だと感じて授業への満足度が高まることにより、生徒の学力の向上につながると考える。このことを踏まえた授業モデルを示す。

ウ　授業モデルの実践

対　象	高崎市立塚沢中学校　　第１学年 習熟度別少人数学習　発展コース
期　間	平成18年11月７日～12月４日　８時間
単元名	比例（比例と反比例）
授業者	長期研修員　　高橋　義弘

エ　授業づくりのポイント

(ｱ)　主体的なコース選択

○　コースの選択肢を盛り込んだ自己評価カードで、きめ細かく対応する。

生徒のコース選択の目安をもたせるために、授業の最後の場面で、自己評価カードにコースの選択肢を含んだものを取り入れ、授業に対する満足度や理解度等の自己評価に基づいてコース選択を行わせる。これにより、自分にあったコース選択ができ、主体的に学習に取り組むことができるようになるものと考える。

(ｲ)　教材・手だての工夫

○　発展コースの生徒にあった教材を工夫する。

主問題に関わる身近な実生活に関することがらを教材化し、生徒が数学の学習への興味・関心を高めながら学習に取り組めるようにする。

○　具体物や模型を取り入れ、見通しをもって問題を追究できるようにする。

問題解決では、具体物や模型を積極的に取り入れたり、結果を予想させたり、既習の解決方法を思い出させたりする。これにより、生徒が問題解決的な学習に見通しをもって取り組むことができるようになるものと考える。

○　卓上ホワイトボードを取り入れ、自分の考えや意見を発言しやすくする。

問題解決後、解決方法を発表する場面で、生徒一人一人に卓上ホワイトボードを活用する。これにより、生徒が、自分の考えを整理しやすくなるとともに、自分の考えを発表しやすくなり、授業の充実感が味わえるようになるものと考える。

○　発展的な問題を三つの観点から作成する。

授業の最後に、発展的な問題を三つの観点から複数作成する（詳細についてはp. 45参照）。これにより、主問題の理解が深まるとともに、難易度の高い問題を解くことを通して、数学を得意だと感じ、授業の満足度が高まるものと考える。

授業実践の成果

生徒が、主体的に学習できるよう支援し、達成感・充実感を味わえるような題材・手だてを工夫したことで、数学を得意だと感じて授業の満足度が高まり、生徒の学力が向上した。